

鳥箱先生とフウねずみ

宮沢賢治

青空文庫

あるうちに一つの鳥かごがありました。

鳥かごと云ふよりは、鳥箱といふ方が、よくわかるかもしれません。それは、天井と、底と、三方の壁とが、無暗むやみに厚い板でできてゐて、正面丈だけが、針がねの網でこさへた戸になつてゐました。

そして小さなガラスの窓が横の方についてゐました。ある日一疋びきの子供のひよどりがその中に入れられました。ひよどりは、そんなせまい、くらいところへ入れられたので、いやがつてバタバタバタバタしました。

鳥かごは、早速、

「バタバタ云つちやいかん。」と云ひました。ひよどりは、それでも、まだ、バタバタしてゐましたが、つかれてうごけなくなると、こんどは、おつかさんの名を呼んで、泣きましました。鳥かごは、早速、「泣いちやいかん。」と云ひました。この時、とりかごは、急に、ははあおれは先生なんだなと気がつきました。なるほど、さう気がついて見ると、小さなガラスの窓は、鳥かごの顔、正面の網戸が、立派なチョッキと云ふわけでした。いよいよさうきまつて見ると、鳥かごは、もう、一分もじつとしてゐられませんでした。そこで

「おれは先生なんだぞ。鳥箱先生といふんだぞ。お前を教育するんだぞ。」と云ひました。ひよどりも仕方なく、それから、鳥箱先生と呼んでゐました。

けれども、ひよどりは、先生を大嫌ひだいきらひでした。毎日、じつと先生の腹の中に居るのでしたが、もう、それを見るのもいやでしたから、いつも目をつぶつてゐました。目をつぶつても、もしか、ひよつと、先生のことを考へたら、もうむねが悪くなるのでした。ところが、そのひよどりは、ある時、七日といふもの、一つぶの粟あはも貰もらひませんでした。みんな忘れてゐたのです。そこで、もうひもじくつて、ひもじくつて、たうとう、くちばしをパクパクさせながら、死んでしまひました。

鳥箱先生も

「あゝ哀れなことだ」と云ひました。その次に来たひよどりの子供も、丁度その通りでした。たゞ、その死に方が、すこし變つてゐただけです。それは腐つた水を貰ためつた為に、赤痢になつたのでした。

その次に来たひよどりの子供は、あんまり空や林が恋しくて、たうとう、胸がつまつて死んでしまひました。

四番目のは、先生がある夏、一寸ちよつと油断をして網のチョツキを大きく開けたまゝ、睡ねむつ

てゐるあひだに、乱暴な猫大将ねこが来て、いきなりつかんで行ってしまったのです。鳥箱先生も目をさまして、

「あつ、いかん。生徒をかへしなさい。」と云ひましたが、猫大将はニヤニヤ笑つて、向ふへ走つて行つてしまひました。鳥箱先生も

「あゝ哀れなことだ。」と云ひました。しかし鳥箱先生は、それからはすっかり信用をなくしました。そしていきなり物置の棚たなへ連れて来られました。

「ははあ、こゝは、大へん、空気の流通が悪いな。」と鳥箱先生は云ひながら、あたりを見まはしました。棚の上には、こはれかゝつた植木鉢うゑきばちや、古い朱塗りの手桶てをけや、そんながらくたが一杯でした。そして鳥箱先生のすぐうしろに、まっくらな小さな穴がありました。

「はてな。あの穴は何だらう。獅子ししのほらあなかも知れない。少くとも竜のいはやだね。」と先生はひとりごとを言ひました。

それから、夜になりました。鼠ねずみが、その穴から出て来て、先生を一寸ちよつとかじりました。先生は大へんびっくりしましたが、無理に心をしづめてかう云ひました。

「おいおい。みだりに他人をかじるべからずといふ、カマジン国の王様の格言を知らない

か。」

鼠はびつくりして、三歩ばかりあとへさがって、ていねいにおじぎをしてから申しました。

「これは、まことにありがたいお教へでございます。実に私の肝臓までしみとほります。みだりに他人をかじるといふことは、ほんたうに悪いことでございます。私は、去年、みだりに金づちさまをかじりましたので、前歯を二本欠きました。又、今年の春は、みだりに人間の耳を噛かじりましたので、あぶなく殺されようとなりました。実にかたじけないおさとしてございます。ついては、私のせがれ、フウと申すものは、誠におろかものでございますが、どうか毎日、お教へを戴いたくやうに願はれませんか。」

「うん。とにかく、その子をよこしてごらん。きつと、立派にしてあげるから。わしはね。今こそこんな処へ来てゐるが、前は、それはもう、硝子ガラスでこさへた立派な家の中に居んだ。ひよどりを、四人も育てて教へてやったんだ。どれもみんな、はじめはバタバタ云つて、手もつけられない子供らばかりだったがね、みんな、間もなく、わしの感化で、おとなしく立派になった。そして、それはそれは、安楽えいらくに一生を送ったのだ。榮耀えいよう榮華えいけわをきはめたもんだ。」

親ねずみは、あんまりうれしくて、声も出ませんでした。そして、ペコペコ頭をさげて、急いで自分の穴へもぐり込んで、子供のフウねずみを連れ出して、鳥箱先生の処へやって参りました。

「この子供でございます。どうか、よろしくおねがひ致します。どうかよろしくおねがひ致します。」二人は頭をペコペこさげました。

すると、先生は、

「ははあ、仲々賢こさうなお子さんですな。頭のかたちが大へんよろしい。いかにも承知しました。きつと教へてあげますから。」

ある日、フウねずみが先生のそばを急いで通つて行かうとしますと、鳥箱先生があわてて呼びとめました。

「おい。フウ。ちよつと待ちなさい。なぜ、おまへは、さう、ちよろちよろ、つまだてしてあるくんのだ。男といふものは、もつとゆつくり、もつと大股おほまたにあるくんのだ。」

「だつて先生。僕ぼくの友だちは、誰たれだつてちよろちよろ歩かない者はありません。僕はその中で、一番威張つて歩いてゐるんです。」

「お前の友だちといふのは、どんな人だ。」

「しらみに、くもに、だにです。」

「そんなものと、お前はつきあつてゐるのか。なぜもう少し、りっぱなものにつきあはん。なぜもつと立派なものにくらべないか。」

「だって、僕は、猫や、犬や、獅子ししや、虎とらは、大嫌だいきらひなんです。」

「さうか。それなら仕方ない。が、もう少しりっぱにやつて貰もらひたい。」

「もうわかりました。先生。」フウねずみは一目散に逃げて行ってしまひました。

それから又五六日たつて、フウねずみが、いそいで鳥箱先生のそばをかけ抜けようとして、先生が叫なびました。

「おい。フウ。一寸ちよつと待ちなさい。なぜお前は、そんなにきよろきよろあたりを見てあるのです。男はまつすぐに行く方を向いて歩くもんだ。それに決して、よこめなんかはつかふものではない。」

「だって先生。私の友達はみんなもつときよろきよろしてゐます。」

「お前の友だちといふのは誰だ。」

「たとへばくもや、しらみや、むかでなどです。」

「お前は、また、そんなつまらないものと自分をくらべてゐるが、それはよろしくない。」

お前はりつぱな鼠になる人なんだからそんな考はよさなければいけない。」

「だって私の友達は、みんなさうです。私はその中では一番ちゃんとしてゐるんです。」
そしてフウねずみは一目散に逃げて穴の中へはひつてしまひました。

それから又五六日たつて、フウねずみが、いつものとほり、大いそぎで鳥箱先生のそばを通りすぎようとしますと、先生が網のチョツキをがたつとさせながら、呼びとめました。
「おい。フウ、ちよつと待ちなさい。おまへはいつでもわしが何か云はうとすると、早く逃げてしまはうとするが、今日は、まあ、すこしおちついて、こゝへすわりなさい。お前はなぜそんなにいつでも首をちぐめて、せなかを円くするのです。」

「だって、先生。私の友達は、みんな、もつとせなかを円くして、もつと首をちぐめてゐますよ。」

「お前の友達といつても、むかでなどはせなかをすっくりとのぼしてあるいてゐるではないか。」

「いゝえ。むかではさうですけれども、ほかの友だちはさうではありません。」

「ほかの友だちといふのは、どんな人だ。」

「けしつぶや、ひえつぶや、おほぼこの実などです。」

「なぜいつでも、そんなつまらないものだけで、くらべるのだ。えゝ。おい。」

フウねずみは面倒臭くなったので一目散に穴の中へ逃げ込みました。

鳥箱先生も、今度といふ今度は、すっかり怒ってしまつて、ガタガタガタガタふるへて叫びました。

「フウの母親、こら、フウの母親。出て来い。おまへのむすこは、もうどうしても退校だ。引き渡すから早速出て来い。」

フウのおつかさんねずみは、ブルブルふるへてゐるフウねずみのえり首をつかんで、鳥箱先生の前に連れて来ました。

鳥箱先生は怒つて、ほてつて、チョッキをばたばたさせながら云ひました。

「おれは四人もひよどりを教育したが、今日までこんなひどいぶじよくを受けたことはない。実にこの生徒はだめなやつだ。」

その時、まるで、嵐あらしのやうに黄色なものが出て来て、フウをつかんで地べたへたゝきつけ、ひげをヒクヒク動かしました。それは猫大将ねこでした。

猫大将は、

「ハツハツハ、先生もだめだし、生徒も悪い。先生はいつでも、もっともらしいうそばかり

り云つてゐる。生徒は志がどうもけしつぶより小さい。これではもうとても国家の前途が思ひやられる。「と云ひました。

青空文庫情報

底本：「新修宮沢賢治全集 第八卷」筑摩書房

1979（昭和54）年5月15日初版第1刷発行

1984（昭和59）年1月30日初版第7刷発行

入力：林 幸雄

校正：久保格

2002年6月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

鳥箱先生とフウねずみ

宮沢賢治

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>